

シリーズ 行政改革① 市民起点の行政運営を目指して

平成23年度に策定した「第2次一関市行政改革大綱」に基づく「第2次一関市集中改革プラン」の改革実施項目ごとの具体的な取り組みを本号からシリーズでお伝えします。
初回は、4つの重点項目のうち、「協働によるまちづくりの推進」と「業務改革の推進」の2つです。

市は、限られた財源の中で、魅力あるまちづくりや地域の活性化を継続的に推進しています。市民との協働による市民起点に立った質の高い市民サービスの持続的な提供と行政運営を行うため、行政改革に取り組んでいます。

「第2次一関市行政改革大綱」は、行政改革に対する取り組みの方向性を示したものです。期間は23年度から27年度までの5年間です。「第2次一関市集中改革プラン」は、行政改革大綱の4つの基本方針を重点項目とした改革実施項目ごとの具体的な取り組みを示しています。

■4つの基本方針（重点項目）と集中改革プランの主な取り組み項目

1	協働によるまちづくりの推進 ①協働の推進②透明性の向上
2	業務改革の推進 ①事務事業の再編・整理②補助金などの整理合理化③民間委託などの推進④公の施設などの見直し⑤第三セクターなどの見直し⑥情報通信技術（ICT）の活用
3	人材育成の推進と組織体制の見直し ①人材育成の推進②組織体制の見直し
4	健全な財政運営の確保 ①経費の節減合理化②税金などの確保

重点項目1 協働によるまちづくりの推進

①協働の推進

協働の主体である市民組織、企業、行政が互いの立場を尊重し、公共的、公益的な活動を継続的な話し合いと合意により、協力して行動する協働のまちづくりを推進します。

また、まちづくりを担う各種団体の機能強化への支援など、協働を進めるための基盤強化に努めます。

【主な取り組み】

▷各種団体の自立支援▷地域協働体の組織づくりの支援

②透明性の向上

個人情報保護を確保しながら、行政手続法や情報公開制度の適切な運用を図るなど透明性の向上に努めます。

また、まちづくりを進めるためには、行政の説明責任を果たすことが不可欠です。行政情報を適時・的確に提供し、情報を共有するとともに、市民ニーズの把握に努め、各種の施策に反映します。

【主な取り組み】

▷市広報の充実▷職員給与、財政状況、補助金、指定管理者制度導入施設の運営状況、各種計画などの公表

重点項目2 業務改革の推進

①事務事業の再編・整理

全ての事務事業を「必要性」「有効性」「効率性」「公平性」の各観点から定期的に点検を行います。真に市民にとって必要な事業をより効率的、効果的に実施するため、積極的な再編・整理に努めます。

【主な取り組み】

▷政策評価システムの構築▷市営バスやコミュニティバス事業の見直し



②補助金などの整理合理化

補助金や負担金は、その目的、費用対効果、経費負担などのあり方を検証し、整理合理化に努めます。

③民間委託などの推進

民間の専門性や効率性が発揮されることで、市民サービスの向上や経費の削減が図られる事務事業は、民間委託など

を推進します。

また、すでに民間委託などを行っているものについても、より効率的、効果的に実施できるよう、定期的な見直しに努めます。

【主な取り組み】

▷市有林経営の見直し▷水道事業の民間委託の検討▷公園管理委託の検討

④公の施設などの見直し

ア. 施設管理運営の見直し

公の施設などは、必要性やあり方の不断点検を行います。施設の整理統合を検討するとともに、効率的、効果的な施設の管理運営に努めます。

【主な取り組み】

▷保育施設の配置と運営方法の見直し▷学校給食施設配置の見直し

イ. 指定管理者制度の導入

市民サービスの向上と経費の削減を図るため、施設の管理運営に指定管理者制度を積極的に活用します。

【主な取り組み】

▷花夢パル▷藤沢B&G海洋センター

⑤第三セクターなどの見直し

第三セクターなどは、事業内容や経営状況を常に把握し、定期的な指導監督を実施するとともに、健全化が必要な第三セクターなどは、経営改善に努めます。

【主な取り組み】

▷岩手県南技術研究センター

⑥情報通信技術（ICT）の活用

これまで整備された情報通信基盤を効果的に利用する仕組みや体制づくりに努めます。

【主な取り組み】

▷行政手続きのオンライン化▷統合型GIS（地理情報システム）の活用



防衛功勞 元3等陸尉
小山晃男さん
おやま・あきお 61 大東町

1969年入隊。埼玉県や茨城県など主に関東地方に勤務。東部方面部隊、東部方面後方支援隊などを経て05年に定年退官しました。36年にわたる隊員生活は車両などの装備の補給・整備や隊員指導などに従事。防衛や災害派遣などで活動する最前線のサポート役、縁の下の力持ちとして活躍しました。「派手さはないが地道に取り組んできた」と振り返ります。

受章に当たり「評価されてうれしい」と笑顔を見せながら「上司、同僚や部下と家族の支えがあったからこそ」と感謝していました。



防衛功勞 元3等陸尉
加藤講一さん
かとう・こういち 61 千厩町

1970年入隊。岩手駐屯地第9特科連隊、岩手地方協力本部などに勤務。日々の鍛錬で強い心身を維持し、病欠は一度もありません。05年、35年の隊員生活を終え定年退官しました。最も印象深いのは95年の阪神・淡路大震災。壊滅的な被害を受けた惨状を目の当たりにし、「言葉が出なかった」と振り返ります。震災直後3週間神戸市に滞在。被災者へ飲料水を配給する支援活動に当たりました。

受章に当たり「上司や同僚の励ましと家族の支えのおかげ」と感謝しています。



警察功勞 元県警部
佐々木孝一さん
ささき・こういち 70 北豊隆

1965年岩手県警入り。盛岡署を振り出しに大半を鑑識業務に携わり、一関署花泉交番所長を最後に02年に退職しました。昼夜を問わず呼び出しに応じ、悲惨な事件・事故現場へ。最前線で証拠集めに奔走し、解明の道筋を探しました。

「気は休まらないが、やりがいを感じた」と使命感にあふれ、「今は懐かしい思い出」と語ります。

受章に当たり「先輩、同僚、各地で出会った皆さんに助けられた警察人生」と振り返り、「つらいとき、支えてくれた家族に感謝します」と話しています。



COMMENDATION

危険業務従事者叙勲



消防功勞 元両磐地区消防組合消防監
山戸實さん
やまと・みのる 67 花泉町

1965年花泉町消防団常備部団員。72年の同消防組合発足時に消防士となり、消防本部警防課長、通信指令課長、消防次長などを歴任。06年に定年退職しました。分署勤務では地理、水利や道路事情など地域の実情が分からず「消防団の方に教えてもらった」と懐かしみます。一方、予防業務ではホテル側に消防法の適合を求めた際、理解が得られず怒鳴られたことも。

受章に当たり「身に余る光栄。先輩、同僚や後輩、地域の方々、家族の支えがあったからこそ」と感謝しています。



防衛功勞 元准陸尉
阿部富次さん
あべ・とみじ 64 花泉町

1967年入隊。陸上自衛隊多賀城駐屯地第22普通科連隊、帯広駐屯地第4普通科連隊などを経て、02年仙台駐屯地第2陸曹教育隊普通科教育中隊で退官。教育部隊勤務が中心で、新人や中堅の育成に尽力しました。常に訓練に打ち込み、射撃は自衛隊内の全国大会に出場する腕前。71年の全日空機撃石衝突事故では犠牲者の捜索に当たり、78年の宮城県沖地震など災害支援にも出動しました。

「厳しい演習で、気力、体力や忍耐力を養うことができた」と35年間の振り返ります。

